2022/06/16
日立少年硬式野球協会
日立ボーイズ

スポーツによる肘障害における検診実施のご案内

日頃より保護者の方々にはご協力頂きありがとうございます。

昨今騒がれております野球肘等の問題は当団体も例外ではありません。近年では投球数や回数を管理して選手の負担は軽減傾向にありますが、肘肩に対しての障害は毎年何名かの選手が悩まされております。その中でも肘の離断性骨軟骨炎(OCD)を発症した選手に関しては、長期の投球禁止の措置が必要となります。発症しても初期症状が無く無痛であるため、気が付かないままプレーを続けてしまうことが殆どです。そのために気づかず手遅れになり、投球が出来なくなるばかりではなく、日常生活にも支障を来すこととなります。この OCD の発症原因は詳しく解明されておりませんが、肘に繰返し動作を続けることで起こると考えられており、野球少年の 2～５％が発症すると言われています。発症時期は小学４年生～中学１年生の選手に多くみられますが、この病気に対する有効な予防・対処方法はありません。(受動喫煙の影響も報告されていることから、当チームの指導者に喫煙者はおりません) そのため定期的に検診を受け早期発見することが選手達にとって一番の有効法とされています。しかしながら近年他県では盛んに行われているこの検診も、残念なことに県内では周知される検診は殆ど行われていません。そればかりか病気に対する認知度も非常に低いことから、発症していることも知らずに肘痛に悩んでいる選手が多数居るのが現状です。過去に当団体でも重軽症合わせて６名の選手が発症しており、内２名が自然治癒療法では完治が不可能であることから、県外にて手術を受けております。手術の内容は、足の軟骨を肘に移植するもので、全身麻酔で行い１週間程の入院後３か月以上のリハビリが必要で、負担の大きな手術・術後となります。この事から当チームは過度の投げ過ぎ禁止や体のケアに重きを置くばかりでなく、この病気に一番有効である検診の実施を推奨しております。保護者の方々にはご理解頂き検診の受診をお願いいたします。

検診内容は一次検診（エコー診断）とレーナーによるフィジカルチェックと怪我予防に繋がるトレーニングの基礎となります。また、チームの管理栄養士の提供を頂いているキーマイン社の食育の講義、歩行改善士 廣瀬氏の足裏面圧分布測定機を使った足裏負荷の診断も行う予定です。

スポーツ整形外科医　可知 芳則先生のプロフィール

千葉大学医学部　平成 12 年卒　専門スポーツ整形

日本整形外科学会整形外科専門医／日本スポーツ協会公認スポーツドクター／Tornier Reversed Shoulder Arthhroplasty Training

・2011 年 野球Ｗ杯日本代表帯同ドクター　・2014 年 仁川アジア大会 野球競技チームドクター

・2015 年 WBSC プレミア 12 野球日本代表チームドクター　・2017 年 WBC 日本代表チームドクター　他